

# 国内フィールドワークの概要

※『 』内のコメントは参加者アンケートから抜粋。

## 第1回フィールドワーク

8月4日（水）：茨城 NPO センター・コモンズ（視察・活動体験）

### ●視察内容

外国籍住民が多い茨城県常総市を訪れ、茨城NPOセンター・コモンズの横田能洋代表から多文化共生社会をつなぐ架け橋として、同団体が取り組んでいる活動についてお話を伺いました。また、コモンズが運営する外国にルーツを持つ子供たちが多く通う学童保育や高校受験を支援するためのフリースクールなどを視察しました。今後、多世代・多文化交流施設として活用するための民家改修作業も手伝いました。

### ●参加者の感想

『地域の子供たちの「困りごと」に寄り添って、1つ1つ問題を解決しようとする姿勢を感じた。SDGsの「誰一人取り残さない」をまさに実現しようとしていると思った。学校では、どうしても日々の指導に追われて困っている生徒を支えきれない部分があるが、基本に戻って1つ1つ丁寧に向き合っていきたいと思った。』



民家改修作業体験の様子

特定非営利活動法人 茨城 NPO センター・コモンズ（所在地：茨城県水戸市ならびに常総市）

<http://www.npocommons.org/>

ひきこもりがちな市民、子ども、外国人、被災者、高齢者、障がい者、またそれら市民を支える地域社会の民間非営利団体などを対象として、①セーフティネットのインキュベーション、②ネットワーク化、③担い手の育成、④活動資源の仲介に取り組んでいます。子どもや外国人を対象とした事業としては、多文化保育園の運営、学習支援や学童保育、子ども食堂の運営支援などを行っています。

8月5日（木）：栃木県国際交流協会（やさしい日本語講座・生活相談員からの事例紹介）

### ●視察内容

多文化共生の社会づくりと国際交流・国際協力に取り組む栃木県国際交流協会を訪問しました。同協会の職員の方から栃木県の外国人の状況について説明を受けたのち、やさしい日本語講座を受講しました。とちぎ外国人相談サポートセンターの生活相談員から具体的な相談事例を聞き、外国人の現状について理解を深めました。

### ●参加者の感想

『「やさしい日本語講座」を受講して、相手の立場になって接することの大切さを実感した。思いやりは、多様な社会を生きるために必要不可欠な資質であると思うので、「心を育む」ことを意識しながら、授業実践していきたい。』

『外国人のサポートには1つの答えはなく、その人や環境に寄り合い、導いていくことが大切だと感じた。』



やさしい日本語の講座の様子

公益財団法人 栃木県国際交流協会（所在地：栃木県宇都宮市）<http://tia21.or.jp/>  
多文化共生の社会づくり、国際交流、国際協力、国際理解の4つを柱に、外国人相談サポートセンターの運営、「やさしい日本語」の普及、災害時の外国人支援など、様々な事業に取り組んでいます。

## 8月5日（木）：有限会社ドンカメ（視察）

### ●視察内容

SDGsの達成にも貢献する資源循環システムの実践事例を学ぶため、栃木県芳賀町の（有）ドンカメを訪問しました。小久保行雄社長から、生ごみや食品廃棄物から堆肥を作る事業や、東ティモールにおけるJICA草の根技術協力事業について、その理念や事業モデルのお話を伺いました。同社の堆肥センターも視察し、堆肥が作られるプロセスを学びました。

### ●参加者の感想

『SDGsといえば貧困や飢餓を思いつきがちだが、今回のドンカメさんのような、生ごみなどの身近な物からSDGsにつながる活動ができるということがわかった。今すぐに何かが出来なくても、地球や環境のためにできることがあるということを教えて頂く必要があると感じた。』

『SDGsに取り組まなくてはいけないからドンカメが誕生したのではなく、地域にとってよりよい選択は何かを考え実行した結果、循環型農業が完成したというストーリーが印象的でした。』



堆肥センター視察の様子

有限会社ドンカメ（所在地：栃木県芳賀郡芳賀町）<https://www.donkame.net/>  
資源循環型社会の実現を目指して、生ごみや食品廃棄物から堆肥を作り、それを地域農家に提供し、農産物に転換する事業を行っています。JICA草の根技術協力事業として、東ティモールで未利用資源の堆肥化を軸とした資源循環システムの構築を目指すプロジェクトを実施中です。

## 8月6日（金）：エスコーラ・オプション（視察・交流授業）

### ●視察内容

外国にルーツを持つ子供たちの現状を学び、同校の児童・生徒たちに対して交流授業を行うため、茨城県常総市にあるブラジル人学校を訪問しました。同校の取り組みについて上村校長から説明を受けたのち、小・中・高、各校種のチームにわかれて交流授業を実施しました。

（13 ページ以降に各交流授業の概要を記載）

### ●参加者の感想

『国内研修の3日間、多文化共生とは何か、言葉の壁を越えて何が出来るかを考えていたが、授業の中で実際にうまく伝わらない経験をし、それでも伝えようとする、楽しもうとする気持ちの大切さを感じた。子どもたちにも同じような経験をさせられたらと思い、今後交流授業などができたらと思う。』

『実際に交流授業をしてみて、ブラジル人の子供たちとその社会を身近に感じる事ができました。言葉で聞くよりも、実際に交流をすることで、人々との繋がりを感じ取る事ができると思いました。これを機に、エスコーラ・オプションと日本の子供たちとの交流が増えると良いと思います。』



ブラジル人学校での交流授業の様子

### エスコーラ・オプション（所在地：茨城県常総市）

<https://www.facebook.com/escoljapao/>

2001年に上村まゆみ校長が設立したブラジル人学校。ブラジル政府が認可しているブラジル人学校で、ブラジル国内の学校卒業と同等の資格が付与されます。小・中・高一貫校で、保育園も併設されています。日本の文部科学省の指定校で、卒業後は日本の大学の受験資格も取得できます。



エスコーラ・オプションの授業の様子



## 第2回フィールドワーク

9月18日（土）：

筑波大学附属坂戸高等学校（授業参観・SDGs学習について教員同士で意見交換）

### ●視察内容

SDGsのような地球規模の問題をテーマにした授業で先進的な取り組みを実践している筑波大学附属坂戸高等学校の授業を参観し、同校の教員とSDGs学習について意見交換を行いました。この日は、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、オンラインで実施しました。授業参観では、タイとオンラインでつないで、タイの社会や教育現場への新型コロナの影響について生徒が考える授業を参観しました。意見交換のセッションでは、SDGs学習の授業設計や評価について活発に意見が交わされました。

### ●参加者の感想

『学校訪問ができなかったことは残念でしたが、コロナ禍でしか体験できないオンライン授業の参観ができたことは大変貴重でした。私の授業実践の内容もコロナを取り上げるので、参考にさせていただきます。また、坂戸高校さんの取り組みや、先生方の生の声を聞くことができ、良い刺激になりました。』

筑波大学附属坂戸高等学校（所在地：埼玉県坂戸市）<https://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp/>

同校は、国内外の多様性豊かな社会で積極的に行動できるグローバルリーダーの育成を目指して、地球規模の問題をテーマにした授業を数多く実践しています。文部科学省のWFL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の拠点校に指定されており、海外の高校との連携も進めています。

10月22日（金）： 常総市立水海道中学校夜間学級（視察）

### ●視察内容

茨城県内唯一の公立夜間中学「常総市立水海道中学校夜間学級」を訪問し、夜間学級の制度や同校の取り組みについてお話を伺いました。多くの外国人が通っている同校の状況についても説明を受け、その後、日本語の授業を参観しました。

### ●参加者の感想

『授業参観をしながら具体的な説明を聞けて、夜間学級への理解が深まりました。』



参観した日本語授業の様子

常総市立水海道中学校夜間学級（所在地：茨城県常総市）

<https://www.joso.ed.jp/mitsukaido-j/index.cfm/10.html>

常総市の中学校夜間学級です。夜間学級では、夜の時間帯に、義務教育を修了していない人や外国籍の人などに教育の機会を提供しています。同校では、約7割が外国籍の生徒です。